

財っ子通信

第4号

文責 校長：三樹和幸

やりたいこと できることが増え

やらなければならないことが確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校

電話：54-2825

校長 Email:

zaikoji-k@hyugacity.jp

7月になっても雨が続いており、子供たちが運動場元気よく遊ぶ日は限られています。水泳も雨の中、頑張っていますが、好天の夏の青い空の下で、泳げる日を待っています。

運動が広げる世界

このデータは、なんだと思いますか？

1984年（15.2%） 2004年（41.5%）

今は2015年ですから60%を超えるかも知れません。保護者の皆様の年代では、6人に1人だったものが半数近くになったこの数字ですが、実は自分の背丈よりも高い木に登ったことがないと答えた小学校6年生の割合です。成長において、特に神経系は5歳頃までに8割、12歳でほぼ完成します。ですから、小学校時期は様々な神経回路が形成されていく大切な過程だと言えます。いったん自転車に乗れると何年間も乗らなくてもいつでもスイスイ乗れますよね。一番刺激が必要な時期なだけに、なでしこジャパンで話題になっているサッカーの世界でも、5～8歳ぐらいをプレゴールデンエイジ、10歳から12歳をゴールデンエイジとし、大人でもすぐにはできない技を見よう見まねで短時間でできるようになるこの時期を大切にしています。

しかし、現実の世界は、とても厳しく、「危ないこと」から極度に逃げている気もします。そばに親がついてあげていれば、もしかしたら広がる可能性があるかも知れません。小さな頃に、親とじゃれ合ったり、相撲を取ったりする経験は、実は、その子の調整力や空間感覚を広げるとも言えます。

この時期に、いろんな運動をさせてあげれば、運動神経が高まります。ちなみに、私が僻地校勤務の頃、一輪車に職員で挑戦しましたが、一番早くできた先生が4週間、入学した小学校1年生で一番早くできた子は5日、一番遅い子が4週間でした。

このことは水泳だって同じ、今が頑張りどころです。大人になって頑張りうらと思っても、簡単ではありません。そうなる毎日自分の足で登下校することは運動の意味からも大切です。いろんな運動に挑戦すること、毎日の登下校を頑張ることが、未来を開く一歩になると思います。



経験がイメージを広げる

子供たちに、空間図形における対角線をイメージさせることは、かくれんぼをしたことがない子にとっては、難しいです。鬼役の子から自分が見えるかどうかを考えて隠れるということは、両者の間の空間に線を引いていることになります。これを遊びの中でやるというのはとても大切なことです。

しっかり自分の足で歩く経験がある子は、時間と距離のイメージがつかめます。距離から、かかる時間を推測する経験を持つことはとても大切で、その経験が、テキストを読み解く基礎になります。

お手伝いにしても同じ。美味しく揚がった唐揚げを全部お母さんが、皿に分けるのではなく、子どもに手伝わせて下さい。4人家族（大人2名 子供2名）で10個揚がった唐揚げを、子どもはどうやって分けるのでしょうか、2個ずつ分けて2個余らせるかも知れなし、大人が3個で、子どもが2個の分け方をするかも知れません。

算数的に考えると、前者は $10 \div 4 = 2$ 、後者は $10 = 3 \times 2 + 2 \times 2$ これを教科書の問題が出てきて経験なしにイメージさせても難しいし、勉強の役立ち感がありません。

親が、何でもしてあげるのは時間もかかりませんし、楽ですが、少し子供に任せてみませんか、経験がきっと子供を成長させます。

